

11204めっき業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2017	12	16~17	脚立に上って複合タンクを整備中、バランスを崩し転倒し、右踵を骨折したものである。	53	2	371	10 ~ 29
2	2017	12	14~15	横切り装置付き傾斜盤設置場所で、加工が禁止されている寸法品（塩ビ板、幅6cm×長さ20cm）を切断していた。切断位置がずれたため、切断位置を修正しようと左手を伸ばしたとき突然、切断していた塩ビ板が割れ、破片が左手中指に当たり、指の甲側を裂傷した。	43	4	169	100 ~ 299
3	2017	12	11~12	年末大清掃にて、分析室内の天井に付いているエアコンのフィルターを清掃する為、椅子を用いて高さ3m程度の所に有るエアコンに手を伸ばして作業をしていた。その時、椅子がぐらつき、床に落下して頭部を強打した。直後に鼻血が出たものの、大した事はないと思い、その事を誰にも言わずに帰宅したが、夕方に痛みが出た為、救急外来で受診し、即入院となった。	53	1	379	30 ~ 49
4	2017	12	16~17	鉄製手すり（フラットバー板厚約4mm、巾12mmで加工されたもの：大きさ・高さ約0.8m、長さ約3m、重さ約50kg、2枚）をフォークリフトで作業台の上に載せ仕上作業を行うため、1枚ずつずらしたところバランスが悪く、1枚が床に落ちたので作業台の脚に不安定な状態で立てかけたまま、もう1枚も落ちない様に2名で押さえていたところ、立てかけてあった1枚が被災者の被災者の左足甲にあたり負傷した。	29	5	521	50 ~ 99

5	2017	11	9～ 10	トラックの荷台の上で、製品の積み降ろし作業をしている時に、製品を持ち上げようとしてバランスを崩し、倒れた際にトラックのあおりで脇腹を強打し打撲した。本人が単純な痛みと判断し、翌日まで作業したが、その後も痛みが引かず受診し骨折と判明した。	22	2	221	10 ～ 29
6	2017	11	13～ 14	工場の仕上げ場で、めっきした製品を積んだパレティーナをホイストで移動中に、パレティーナを揺れ防止のために手で押さえていて、停止から再びホイストで動かした時に製品の一部が落下し、頭部に当たった。	55	4	521	30 ～ 49
7	2017	11	17～ 18	工場の作業場でサンダーでバリ取りをしている時に、右手の人差し指を切創した。	47	8	153	30 ～ 49
8	2017	11	15～ 16	工場製品置場にて、仕分け作業をしている際に、リフトが近付いてきたので避けようとしたところ、近くにあったパレットに躓き転倒した。転倒の際、左手首を地面についた。手首の痺れを感じたので30分程様子を見たが、痛みが強くなったので診察を受けたところ骨折が判明した。	73	2	379	100 ～ 299
9	2017	11	14～ 15	本社工場の旧CUR-1ラインの剥離槽の薬液を更新する作業中、半分以上水を入れた槽に粉末状の苛性ソーダを投入中に、苛性ソーダの塊が槽に入ったのが原因と推定される突沸が起き、薬液が槽から噴出し、避けようとした作業者の背中、左肩左足にかかり化学熱傷を負った。	22	12	514	50 ～ 99
10	2017	11	11～ 12	工場に入ってすぐの通路で工場の外にあった台車にのったプラスチックの箱（50×33×16cm）を作業場内に入れる時、ドアのレールに躓いて転び作業場のガラス戸に手をつき左手をガラスで切った。	59	2	417	1～ 9
			14～	ワッシャーΦ1620×厚み20mmを大型予備槽に入れる時に、ワッ				30

11	2017	11	15	シャーが傾きIボルトが破断し転落した。被災者は転落の際、ワッシャーと予備槽の間に右手首を挟まれ負傷した。	25	1	379	～ 49
12	2017	11	16～ 17	配達をする為、青信号となったのを確認し横断を始めたところに、相手方（軽四輪）が赤信号に気付かずに直進し、右側面に衝突され、負傷してしまった。	51	7	219	30 ～ 49
13	2017	11	10～ 11	レジから出た際、レジ加工置場で転んでしまい、コラムの脚に頭をぶつけてしまい、切ってしまった。	24	7	521	30 ～ 49
14	2017	10	8～9	製品自動整列機で素材が素材箱から安全に取れず、素材箱と一緒に搬送され、素材箱が整列機テーブル上に落下した。このとき、磁石部のセンサーが切れずに昇降チェーンが「たるみ」オーバーランとなった。手動にて箱、素材を整理後、自動に切り替え、昇降チェーン駆動の減速モーターの動きの補助でベルトを軍手のまま触ったため指先がベルト・プーリー間に巻き込まれ、左手小指第一関節裂傷した。	45	7	159	100 ～ 299
15	2017	9	6～7	メッキ加工の工場内でメッキ作業中に落下した品を探しているところ、全自動制止ラインと呼ばれる自動メッキ加工装置の上下に可動する前処理昇降キャリアに胸部を挟まれる。	75	7	229	30 ～ 49
16	2017	9	16～ 17	バフ研磨機の作業は、品物をおさえて動かないようにする動作がある。ハンドルを回す動作もあり、その際に痛みを感じた。	42	19	159	10 ～ 29
17	2017	9	16～ 17	クレーンのリモコンを両手で持ちながら、H鋼からトロッコに移動しようと片足を乗つけた際、結束用のチェーンを踏んでしまった。それと同時に他の作業員がまわりの状況を確認せずにそのチェーンを引っ張ったため、チェーンと一緒に片足が引っ張られ転び、左大腿二頭筋を損傷した。	45	2	379	30 ～ 49
			16～	工場内にて、ペンキの一斗缶の空容器を解体しているときに、ペンキが残っており、ガスが溜まっていたため、グラインダー				10

18	2017	8	17	でカットしようとした際に出た火花に引火し、炎が出て、衣服に覆われていなかった左手首に火傷を負った。	47	11	153	～ 29
19	2017	8	16～ 17	工場内にて、ペンキの一斗缶の空容器を解体しているときに、ペンキが残っており、ガスが溜まっていたため、グラインダーでカットしようとした際に出た火花に引火し、炎が出て、衣服に覆われていなかった左手首に火傷を負った。	47	11	153	10 ～ 29
20	2017	8	14～ 15	工場内の入口付近で、C型チャンネルで組んだ製品（横2800、縦1300）を脱脂中に、本人が製品に当たり倒れ掛けたときに、倒れないように押さえた結果、足の上に製品が倒れ、安全靴を履いていたが、足の甲に酷い腫れが生じた。	45	5	521	10 ～ 29
21	2017	8	13～ 14	電解研磨工程でカゴに製品を入れ、酸洗った後に洗い場にクレーンで移動し乾燥作業をするために製品が入ったカゴにお湯をかけてから洗い場から移動させるが、移動する際にアングルにクレーンで吊るためのバーをセットしなければならない。カゴに上ってセット中にバーの位置確認をしにカゴから降りる時にアングルに添えていた手がズレて裂傷した。	55	8	391	50 ～ 99
22	2017	7	14～15	慌てて検査室に行く途中で足が絡まって転びそうになった時、ガラスに肘が当たり、ガラスが割れて手の平を切った。	47	8	419	30 ～ 49
23	2017	7	10～11	不用品のメッキ部品が入っている箱を持ち上げた瞬間、腰が痛くなり動けなくなった。シップを貼ったが改善されず。箱の重さは5kg前後、二段重ねになっている上の箱を持ち上げる際に中腰になった事が原因。	42	19	921	10 ～ 29
24	2017	7	10～11	亜鉛釜上にて作業員2名で浸漬管（亜鉛溶解用バーナー部品）の交換作業をおこなっていた。その後、新しい浸漬管をベースにセットする時に補助として被災者が加わった。作業員は浸漬管を持ち差し込もうとした際に被災者に下から支える様に伝えた	55	11	341	300 ～

				が被災者は作業がしづらかったためか（推定）作業対象の反対側へまわり釜開口部付近へ移動したところ足を踏み外し垂鉛浴に足が浸かり被災した。				499
25	2017	7	15~16	工場内の製品置き場で鉄板（約200kg）を移動させる際、リフトですべきところを手で持ち上げた結果、鉄板に敷いてあった台木との間に左手中指を挟み負傷（骨折）した。	37	7	521	10 ～ 29
26	2017	7	21~22	当社、前処理結束場にて製品（H枠100×100×長さL約7m、幅約1.3m1本約470kg）5本を立てて並べ製品の間前処理治具を入れて結束作業中。治具のピンが入りにくかったため、治具を手で動かした時、並べていた製品が倒れ後部に置かれていたHR柱との間で挟まれ、負傷した。	48	7	521	50 ～ 99
27	2017	7	17~18	団地工場内電解槽に苛性ソーダを投入する作業の際、電解槽が高温状態となっていたことに気がつかず、電解槽液に苛性ソーダを投入した。これにより一層高温となったため電解液が飛散、被災者の全身にかかり受傷したもの。電解槽の高温状態であることを装置が音声にて警告していたが気が付かなかった。	39	12	519	30 ～ 49
28	2017	7	17~18	当社工場内にて、約40cm四方の製品を作業台に載せる際、手元が滑り製品と作業台に右手中指を挟んだ。挟んだ後は大丈夫と判断したが、帰宅後腫れと痛みが増した。	39	7	611	10 ～ 29
29	2017	6	14~15	会社工場内にて移動中、地面に置かれていた金属製のカゴに入っている鉄の棒（長さ1m程度）に靴紐を引っかけてしまい、その場で転倒した。その際、左肘を地面にぶつけてしまう。その時は特に痛みは大きくなかったが、2週間程してから、左足（特に膝）に強い痛みを感じるようになった。	49	2	521	10 ～ 29
30	2017	6	12~13	昼の休憩中、くつ下を履いて立ち上がる時にぎっくり腰になった。	41	19	921	30 ～ 49
				出張工事にて、作業現場から宿泊先のビジネスホテルへ帰宅				

31	2017	5	19~ 20	中、ホテルに着いて荷物を持って車を降り、ホテル建屋へ向かう途中、足元が見えず階段下の段差で足を滑らせて転んだ。	42	2	417	1~ 9
32	2017	5	10~ 11	当社工場内で、運転者がリフトで吊り治具を受け取って外す為にリフトを動かしている最中、場所を空けようと前チャージの吊り治具で外した品物の重量を量ろうとしていた時に、後から吊り治具が背中に誤って滑り落ちてきてしまい、倒れて負傷した。	46	4	222	10 ~ 29
33	2017	5	10~ 11	フォークリフト運転者がフォークリフトで吊り治具を移動している最中、吊り治具をおろす為に下に引く木を準備していたところに、吊り治具がフォークリフトの爪から滑り落ちてきて、前頭部を強打し、頭部と首を損傷した。	56	4	222	30 ~ 49
34	2017	4	10~ 11	宅配便にて取引先の製品（約45kg）が工場内に入荷し、棚（高さ700mm）の上に置かれていたため、台車に乗せ移動しようとして製品を抱え台車へ降ろそうとした時に激痛が走り、腰を負傷した。	58	19	921	50 ~ 99
35	2017	4	15~ 16	当社工場において、たてといの取りつけ枠（1m×1.9m）を運ぶ作業で、エキスパンドメタル網を張ってある槽（1.9m×3m×深さ2m）の上を歩いていた際、網に穴（35cm×40cm）が空いていた部分があり、落ちないように木の板を引いてあったが、足元を見ていなかったため板がずれているのに気付かず右足を踏みだしたとき、ずれた木の板の端を踏み、板がめくれた事により右足が穴に落ちてしまい、股間を打った。（第3者による災害ではない）	37	1	416	10 ~ 29
36	2017	4	9~ 10	会社工場内の製品置き場において整理整頓作業中、出荷用に積んであったH鋼の製品が目に入らず、そこに製品がないものと勘違いして前に進み出たとき、H鋼の角の部分で右胸を強打して負傷した。当初は痛みをこらえて早退し自宅療養していた	65	3	521	30 ~ 49

				が、痛みがひどくなった。				
37	2017	4	14~ 15	当社屋外作業場に於いて製氷用製品のメッキ後の仕上作業をする為、高さ2mに吊り上げていた3基を地上に置き、1基を取り出そうとした際に手前に転倒し、支えようと右手を出したときに製品と地面にはさまれた。（製品：長4850mm、幅620mm、高150mm、重さ250kg）	42	4	521	10 ~ 29
38	2017	4	10~ 11	品物が倒れないようにゴムをかけていたが、そのゴムが切れて体に当たり、飛ばされてしまい、隣にあったパレットに足が引っ掛かって転んで手をついた際、左手首を骨折した。	58	2	379	1~ 9
39	2017	4	17~ 18	アルカリ脱脂槽（深さ90cm）の中にある配管が詰まったため、トイレ用のラバーカップ（長さ57cm）を使用して詰まりを取り除く作業中、アルカリ脱脂槽のキャリア上部のカバーに立って（縦1m19cm、幅25.5cm）両手でラバーカップを持ち、配管入口を吸い上げ引き抜く際、引く力が強くなり後ろにバランスを崩し、槽の中に右足から落ち、下半身部位がアルカリ脱脂液に浸かり痛めた。	46	1	391	50 ~ 99
40	2017	3	11~12	工場内で鍍金加工作業において、加工物を取ろうとした際、階段途中にあったバーに接触し、右肩が脱臼した。	30	3	413	10 ~ 29
41	2017	3	4~5	本社工場4階から3階への階段で暗かったため、よろめき足を踏みはずし、4階から踊り場まで転落し、右上腕骨頭部粉碎骨折、右前頭骨骨折、脳しんとう、右眉毛部挫滅創を負った。	41	1	413	100 ~ 299
42	2017	2	18~19	本社工場内の自動メッキ装置の脱脂槽にD38溶液の補充作業中、バケツで溶液を投入した際、溶液が跳ね、液が右目に入ったものである。すぐに水道水で洗い、しばらく仕事を続けたが痛みが引かなかった為、業務終了後に医療機関を受診した。通常本作業では、ゴーグル着用を義務付けていたが、本人が怠った為に受傷したものである。	36	12	514	10 ~ 29

43	2017	2	15~16	被災者は一人で自社脱脂作業室において、トリクロロエチレンを使用して脱脂作業をしていたと推察される。他の労働者が作業室の中で倒れているのを発見し救急車を呼ぶが搬送先の病院で翌日、死亡した。低酸素脳症と診断されたが、直接の死因は不明である。一人で作業していたため作業時間は不明である。	47	12	514	1~9
44	2017	2	18~19	自社工場内において、時間外でメッキ処理準備作業中、鋼鉄製ベースプレート（980mm×1200mm×15mm、重さ約135kg）の表面ねじ穴にアイボルト（治具）を1点取り付け、天井クレーンで持ち上げ移動しようとしたところ、治具がねじ穴の奥まで入っていなかったため、約75度まで傾いたところで外れて倒れ、下に置いていたベースプレート在庫との間に右手薬指先端部を挟み負傷した。	35	4	372	10~29
45	2017	1	20~21	本社2階の平面研磨機で、バフ研磨作業中にバフヘッドを移動させている時、バフヘッドの車輪と本体のレールの間に左手小指を挟まれ、小指を切断した。	54	7	153	10~29
46	2017	1	14~15	金属製品の加工作業中、誤ってサンダーで足首を切ってしまった。	41	8	153	1~9
47	2017	1	15~16	取引先の工場内にて、製品の検査業務をしていて、プラスチック製のボックス型コンテナ（約10kg）を両手で持ち上げ、高さ約900mmのコンベアーの上に載せようとしたとき、腰痛を発症した。	33	19	611	—
48	2016	12	7~8	夜勤の社員より鍍金装置から異音がすると報告を受け出社。昇降モータ付近から異音を確認し、運転を停止。動作確認のため、被災者がライン長に昇降モータを手動で下降するよう指示。しゃがんでいた被災者に降りてきたモータの一部が接触し、左足太もも内側を受傷した。	50	7	321	50~99
			15~	めっき装置メンテナンス通路にて、ニッケル槽洗浄作業後のバルブ操作作業中、ニッケルカソードロックのシャフト付近に手				100

49	2016	12	16	を入れた際、ニッケルカソードロックのシャフトに作業服が巻き込まれ、首が絞まってしまい窒息状態となった。	34	7	121	～ 299
50	2016	12	9～ 10	コンベアベルト交換時に、ローラーの両端を2人で持ち上げた。スプロケット側をもう1人の社員が持ち、その社員側に引き抜こうとした際に腰を痛めた。	34	19	521	—
51	2016	12	8～9	工場内作業場において、排水処理に使用するイオン交換樹脂塔の交換が必要となり、ハンドリフトを用いて作業していた。通路が狭く、樹脂塔の側面が壁に引っ掛かったのでそれを外す為、樹脂塔架台下部に手を掛けて手前に引いた時、樹脂塔がズれてリフトから落ち、右手中指と人差し指の先端を床と架台に挟まれ負傷した。	40	4	229	30 ～ 49
52	2016	12	17～ 18	第1号基にグリスを塗布中に誤って足をすべらせ、同機の設置してある走行キャリアのレールにつかまった際、キャリアに左手を轢かれて負傷した。	38	7	169	10 ～ 29
53	2016	11	14～ 15	めっきラインの手動操作中、キャリアと呼ばれる、レールに乗った装置を手動スイッチで動かす際、左手をレールの上に載せてしまった。その時、操作ミスで動作の逆のボタンを押してしまった結果、レールと車輪の間に手を挟んでしまった。	51	7	169	1～ 9
54	2016	11	11～ 12	製造ライン内で、製品を治具にセットしようとした際に足を滑らせ転倒し、背中を強打した。	52	2	416	10 ～ 29
55	2016	10	16～ 17	H形加工品を搬出トロッコからクレーンで半門ヤードに仮置きするために運搬を行っていた。10番の状況を確認するために、クレーンを操作したまま製品に体を入れた直後に、運搬していたH形加工品が仮置してあった他のH形加工品に接触し、上段がバランスを崩し被災者にもたれかかるように倒れ、左後方にあったH形加工品との間に挟まれ負傷した。	59	4	211	50 ～ 99

56	2016	10	6～7	設備に穴があいた為、交換を行っている際、スリーブにフックをかけ引き上げた時、スリーブを平行にする為、前機だけを巻き上げした際、異常に上昇した為、遠心炉板に遠心スリーブの下側のツバが引っかかり、シャックルのピンが変形して外れ傾いた。傾いた際に遠心スリーブの上部のツバが右膝にあたり負傷した。	33	6	612	100 ～ 299
57	2016	10	8～9	ライン後メッキセット場にて、製品に番線を結束している時に、仮置きしていた製品が左足側に倒れ、擦り傷と打撲をした。	50	6	391	100 ～ 299
58	2016	10	14～ 15	メッキ作業場内でピロリン酸銅によるメッキの密着状態を確認する為に、深く前かがみになろうとした際に、床が濡れており、足を滑らせ体勢を崩した折に、腰をひねり捻挫した。	34	19	416	10 ～ 29
59	2016	9	20～ 21	工場内前処理場にて製品の洗浄作業をしていた。苛性槽にて作業中、液に浸らない部分があった為、柄杓で液体苛性ソーダをかけていた。その際、ゴーグルを着用していなかった為、跳ね返ってきた液体苛性ソーダが左眼に入った。	44	12	514	100 ～ 299
60	2016	9	11～ 12	次々に送られて来る容器の中に品物約20kgを機械で自動投入している時に、次に品物を投入する容器の中に残留品が残っていないかを確認しに行く際、狭い所を通らなければならず、通る際に、ちょうど胸の高さに機械を支える鉄骨があり、そこで胸を強く打った。	24	3	419	30 ～ 49
61	2016	9	17～ 18	メッキ仕上げ作業場にて、メッキ支柱の製品にスプレー作業をしていた際に、リフトで作業している人が後退してきた為、接触によって左肩にリフトの爪が当たってしまった。	31	6	222	10 ～ 29
62	2016	9	15～ 16	自動ラインにてホイストのリミットスイッチの不調と思われるライン停止が起こり、復旧作業のためホイスト上部の検査歩廊に登り調整を行っていた。復旧後、リミットスイッチを稼働させるバーを固定させるためホイストレール上に座り、増し締め	31	7	211	100 ～

				をした際、電源を切っていなかったホイストが動き出し左足を巻き込まれ被災した。				299
63	2016	8	11～ 12	工場にて、容器に入った約100℃の熱湯を使って製品の洗浄作業をしていたとき、容器から製品の入ったザルを取り出そうとしたところ、容器にザルが引っ掛かってしまい、その反動で容器が傾いて、こぼれた熱湯が被災者の両足にかかってしまった。	32	11	379	30 ～ 49
64	2016	8	11～ 12	メッキ槽横でメッキ槽の灰かき作業をしていた。オペレーターはオペレーター室のクレーン操作盤からクレーンの操作をしていた。オペレーターが製品の入ったカゴをクリヤー槽から仕上げ場へ移動しようとクレーン操作をしたところが、誤ってメッキ槽横のクレーンを操作したため、パイプの入ったカゴがメッキ槽横にいた被災者に近づき、被災者はカゴとメッキ槽の手すりとの間に挟まれ負傷した。	24	7	391	100 ～ 299
65	2016	8	11～ 12	工場内にて、鍍金加工された部品が入った重さ25～30kgのカゴを中腰の体勢で移動させようとしたところ負傷した。	21	19	611	30 ～ 49
66	2016	8	20～ 21	工場内でワイヤーで吊り下げた部品を次の工程に段取りしている際、クレーンのフックを片方はずしたところ部品が揺れ、倒れるのではないかと思い慌てて脚立及び足場より飛び降りた為、右足を強打し、受傷した。	57	3	416	10 ～ 29
67	2016	8	15～ 16	工場内に於いて、リアモニターに鍍金をする為、リアモニターをハンガーに引っ掛ける作業をしていたところ、手を滑らせてリアモニターを落とし、リアモニターが右足すねに当たり負傷した。	43	4	521	10 ～ 29
68	2016	8	14～ 15	検査室内において、製品計量中、1箱10kgのポリ箱を段積み移動する時に、手がすべってポリ箱の底に右手首があたり負傷し	55	4	611	30 ～

				た。				49
69	2016	7	13～ 14	メッキ前処理現場で、酸洗いをしている時に、足元が濡れて滑り、塩酸槽に落ちた。	53	12	514	10 ～ 29
70	2016	7	15～ 16	工場内のメッキラインのバレルがキャリアからはずれてしまったため、作業員数名でバレルを持ち上げ戻した際、操作員が誤って前進ボタンを押してしまったため、バレルが前進してしまいバレルとぶつかってしまった。	23	6	159	10 ～ 29
71	2016	7	9～ 10	工場内大型洗浄機前にて、表面処理を行う金型をバスケットに入れ、搬送装置でつり上げたところ、チェーンが切れ、落下してしまった。その際、作業員が下に居た為、ぶつかってしまった。	35	4	391	30 ～ 49
72	2016	7	13～ 14	メッキ工場内において、メッキ完成品を取り出す際に、製品落下防止の為に使用している針金が、右手人差し指に刺さり負傷した。	48	8	521	50 ～ 99
73	2016	7	15～ 16	工場内において、熱中症予防の為にドライアイス配布しているが、被災者はそのドライアイスの不織布の袋で包み、作業ズボンのサイドポケットに入れていたが、そのままの状態での作業を続けていたために、気づいた時には低温やけどを負っていた。	46	11	715	50 ～ 99
74	2016	7	18～ 19	工場の脱脂槽から、両ネジアンカーボルトが入った酸カゴを、チェーンブロックを使って操作したとき、誤った操作をしてしまったため、急に酸カゴが落ち、熱湯があふれ、その場から逃げたが、体の右側を火傷してしまった。	39	11	219	30 ～ 49
75	2016	7	14～ 15	工場内において鍍金装置のカゴをつかんで移動するアームからカゴが落下し、そのカゴを持ち上げて元の位置に戻そうとしていた時にアームが落ちてきて、アームとカゴの間に手を挟んでしまいケガをした。	44	7	159	10 ～ 29

76	2016	6	16～ 17	工場の薬品倉庫前で治具のメンテナンス作業をしていたところ、近くで薬品の廃棄作業をしていた別の作業者の持っていた薬品容器中の薬品が、急な化学反応を起こし、突沸状態になり容器が破損して中の高温の液体（リン酸）が飛び散り被災者にかかった。	36	12	514	300 ～ 499
77	2016	6	9～ 10	全自動ライン内の中和槽のPHを調べる為ライン内のレールの下に腰をかがめて入って歩き、PH試験紙でのPHを計ろうと立ち上がった際にホッパーのセンサーに頭を強打し負傷した。	65	3	391	1～ 9
78	2016	5	3～4	クーリングタワーの下にある貯水槽からの出水状態が不良のため、貯水槽の水を抜いて長靴で点検のため貯水槽に入ったところ、メンテナンス処理のミスによりメッキ液が入っていたので、両足にかかった部分に炎症を起こした。	54	12	514	30 ～ 49
79	2016	4	15～ 16	野球場でレクリエーション行事（ソフトボール大会）に参加しプレー中に、ボールを投球する際に転倒してケガをした。	46	2	999	50 ～ 99
80	2016	4	13～ 14	工場ラインにおいて商品を治具にのせるライン作業に従事していたところ、治具がラインのカバーとカバーの間に落下し、それを拾うために手を入れた際、衣服がラインに引っかかり巻き込まれて右手を被災する。	70	7	224	30 ～ 49
81	2016	4	9～ 10	工場内においてメッキ作業中、当日は雨が降っていて、亜鉛ニッケルバレルラインのレールに湿気があるとブレーキが利かなくなるので、すべり止めの粉をつける作業をしていた際、スイッチを切らずに行った為、レールの上に手をかけてしまった時にキャリアが走行してきて、左示指、中指、環指を負傷した。	52	7	169	30 ～ 49
82	2016	4	10～ 11	ライン後処理にて、セボが付着している箇所を、工具を使用して除去作業をしていたところ、腰に痛みが発症した。	59	19	921	100 ～

									299
83	2016	4	15～ 16	工場内を移動中に、誤って転倒しその際に、左手首を負傷した。	78	2	418	1～ 9	
84	2016	4	11～ 12	亜鉛合金ラインの治具剥離液更新作業中に長靴を履いて作業していたが、その長靴底に穴が開いていた為、アルカリ液が右足かかとに付着し、負傷した。	38	12	514	100 ～ 299	
85	2016	3	18～ 19	被災者はサンダー掛けの仕上げ作業を行っていた。積み重なった加工管の塊の中に、L字型のパイプがその他加工管の重量で自立していた。別作業者がその塊の加工管の一部に仕上げ処理を開始した際、自立していたL字加工管が倒れ、自立していた部分の先が被災者の右手を直撃した。結果、右手薬指を骨折した。	23	5	521	100 ～ 299	
86	2016	3	10～ 11	組立場でシリンダーを左手で支えて分解中に、シリンダーが落下して、左手の指を骨折した。	21	4	521	30 ～ 49	
87	2016	3	14～ 15	工場内鍍金場において、釘用分離機を清掃する為、釘用分離機の蓋を開放し清掃後、蓋を元に戻し分離機作動させていた時、蓋が完全に閉まっていなかった為、蓋の上に足を置いたところ、蓋が外れ足が分離機にはまって負傷した。	26	7	169	10 ～ 29	
88	2016	3	10～ 11	横切り切断機設置場所で厚さ10mmの塩ビ板を細かく切断していた時、切断設備に不向きな小さいサイズに切っていた。塩ビ板のサイズが小さかったので、刃物を挟んで両手で塩ビ板を押しさえ切断し終わった瞬間、押した勢いで左手の中指と小指に回転している刃物に当ててしまい、切傷した。	67	8	169	100 ～ 299	
89	2016	3	12～ 13	工場内製品置き場にて製品の運搬・確認をしていた時に、別の作業者が製品の入ったコンテナ8箱を台車に乗せた状態で、隣を通行しようとして段差を乗り越えようとしたが、雨で床が濡れていた為、足を滑らせ台車の上に載せたコンテナ6箱を倒してしまい、それが作業者の足にあたり負傷した。	62	2	362	30 ～ 49	

90	2016	2	14～ 15	工場内にてライン作業中めっき自動機からはずしたパイプイスを8段重ねて検査場に動かした時に腰に痛みを感じた。	43	19	921	10 ～ 29
91	2016	2	8～9	排水処理場に於いて、電極の清掃作業中、誤ってキャップを落としてしまい拾う際コンクリの床が夜露で濡れていた為に、足を滑らせ転倒、左足踵、右手首を強打し負傷した。	66	2	417	50 ～ 99
92	2016	1	13～ 14	工場内でボール盤穴あけ作業中、右手でハンドル操作、左手で材料（フラットバー）を押えていたが、貫通直前に材料が回転し、手を離すのが遅れ、本体と材料に指が挟まれた。	41	7	152	1～ 9
93	2016	1	11～ 12	工場の紙資源物置場で中2階にて、段ボールの整理を行っていたところ、足を踏み外して転落し、壁の木の梁に後頭部をぶつかけ、裂傷した。	58	1	416	100 ～ 299
94	2015	12	14～ 15	積み荷を降したトラックを駐車場の所定の位置に納めた後にエンジンを停止し、トラックを安全な状態にした。しかし、荷台に忘れ物をしたため、荷台のシートをまくり、後部のあおりを開くことなく荷台に昇った。用事を済ました後に、あおりをまたいで降りようとした際、誤って足をすべらせて転落し、左踵骨を骨折した。	69	1	221	10 ～ 29
95	2015	12	9～ 10	工場倉庫内を清掃作業中、使用しなくなった鉄製のテーブルを移動するために、同僚3人と持ち上げて台車に乗せる際に、重さ約10kgの天板が滑り落ち、右の脹脛に当り、負傷した。	36	4	521	—
96	2015	12	10～ 11	作業を終了し、槽の上から通路側に降りようとした際に、足を滑らせ背面から槽の中へ落ちてしまった。	30	12	514	10 ～ 29
97	2015	12	17～ 18	帰宅時、社屋出口に向かう途中の玄関において、小走りに一段下に敷いてあるすのこに着地した際、バランスを崩し転倒し、右足を捻った。	26	2	379	30 ～ 49

98	2015	11	20～ 21	工場通路において、重量物（800kg）のめっき完成後、専用台車（2t）で60m先別棟運搬中、専用台車の右側前部で手押し中、車輪に左足を挟まれた。	31	7	362	50 ～ 99
99	2015	11	16～ 17	工場材料置き場にて、素手で重さ15kgの粉体塗料の箱を運搬しようとして、箱を持ち上げて作業場に向かおうとして歩き出した時、右足を内側にひねってしまった。	60	19	921	30 ～ 49
100	2015	11	8～9	工場内酸洗場において、鋼材をめっきするためクレーンで移動する作業をしていたところ、酸洗を終え保管していた鉄製の階段を移動するため近づいた時、突然階段が倒れてきて、H形鋼と階段の間に右足を挟まれ負傷した。	46	6	371	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。